

# 大崎市子どもの心のケアハウスだより

《2月号》

大崎市教育委員会

## 子どもを幸せにする『非認知能力』って何？

テストの点数や偏差値，IQ（知能指数）などのように数値で表せる力を「認知能力」と言います。一方，数値では表すことができない・表面的には見えない力が『非認知能力』とされ，これから起こり得る予測不能な時代を生き抜くためには子どもたちに大切な力だと言われています。

それぞれの年代の子どもの違いを理解して，その時期に合った非認知能力を育みたいものです。

時 期	特 徴	発 達	育ちやすい非認知能力
 <p><b>幼児期</b> (3～5歳)</p>	<p>集団生活が始まります。「遊び」を中心に感性や好奇心，探求心，思考力が養われます。</p>	<p>家族や周りの人に対する信頼感が得られる時期。自分を表現し，他者を受け入れることで自己肯定感が高まります。基本的な生活習慣が身に付き，社会性も芽生えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好奇心</li> <li>・想像力</li> <li>・活動性</li> <li>・積極性</li> <li>・リーダーシップ</li> </ul>
 <p><b>学童期</b> (小学校低学年)</p>	<p>幼児期の特徴は残りますが，善悪の理解と判断が付き，言語能力や認識力が向上します。自然への関心も高まる時期です。</p>	<p>集団や社会のルールを守り，挨拶・礼儀や規範意識の基礎が形成されます。自然など美しいものに感動する情操が育成されます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好奇心</li> <li>・想像力</li> <li>・活動性</li> <li>・積極性</li> </ul>
 <p><b>学童期</b> (小学校高学年)</p>	<p>自分に対する客観性が芽生え，物事を具体化して認識できるようになります。反面，周り自分を比べて劣等感を持ちやすくなる時期です。遊びの中で決まりを作り，ルールを守るようになります。</p>	<p>自他の尊重と他者への思いやりの気持ちが芽生えます。協調性が養われ，集団における自分の役割を自覚するようになります。体験活動を通して，社会への興味・関心を抱くようになります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶</li> <li>・礼儀</li> <li>・まじめさ</li> <li>・協調性</li> <li>・リーダーシップ</li> <li>・コミュニケーション力</li> </ul>
 <p><b>青年前期</b> (中学校)</p>	<p>思春期開始。親や友だちと異なる自分の世界に気づき，自らの生き方を探し始める時期です。反抗期で親や大人よりも友だちとの関係を重んじるようになります。</p>	<p>自分の個性や適性を探求し，自己管理能力が高まります。社会の一員としての意識も芽生え，課題解決能力も養われます。法や公共マナーを守ろうと自覚し始める時期です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まじめさ</li> <li>・協調性</li> <li>・社交性</li> <li>・自己管理能力</li> <li>・問題解決能力</li> <li>・責任感の強さ</li> <li>・不安や緊張に対する強さ</li> <li>・自分に対する自信</li> <li>・コミュニケーション力</li> </ul>

前表のとおり各年齢で求められる能力と育ちやすい『非認知能力』は異なります。しかし、必ずそれぞれのタイミングでしか育たないということはありません。人によって性格や持ち味、育つ時期が異なり、生涯を通して『非認知能力』を育てていくことになります。

また、『非認知能力』の定義は明確に定まっていないので、

「主体性」・「自制心」・「柔軟性」・「意欲」・「忍耐力」・「回復力」・「やり遂げる力」など他にもたくさんあります。そして、子どもの『非認知能力』が伸びるかどうかは、教育や家庭環境の影響が大きいと言われています。

## 『非認知能力』を伸ばすために親ができること

### 愛情を注ぐ

子どもの『非認知能力』を伸ばすためには、親の愛情が必要不可欠です。「親から愛されている」と感じることで、安心感や信頼感が育まれ、「自分はこれでいいんだ」という自己肯定感が身に付きます。

子どもが、ありのままの自分を受け入れることは、「頑張ろう」「諦めずにやってみよう」とポジティブに進む力になります。

### 子どもの自主性を尊重する

好きなことなら誰だって意欲的に取り組み、根気強く続けられるものです。子どもの自主性を尊重して、やりたいと思うことをさせてあげることで、意欲を伸ばしたり、工夫することを覚えたりするなど能力が育まれます。

子どもは一見無駄とも思える行動からも多くのことを学んでいるのです。

### 子どもの気持ちに共感してあげる

楽しいときは一緒に喜び、失敗したときは落ち込んだ子どもの気持ちを理解してあげてください。子どもは自分の気持ちを行け入れてもらえたことで、ますます意欲が湧いたり、自分の気持ちに折り合いをつけて立ち直ったりする力がつくはずですよ。

お子さんが幸せを感じたとき、ショックなことがあったときなどは、気持ちにそっと寄り添ってあげてください。

### 自信を持たせてあげる

自分に自信がつくと、「もっとチャレンジしたい」「もっとよくできる方法があるはず」というように、意欲的になったり、根気強く取り組んだりすることができるようになります。

他の子どもと比べたり、結果だけを評価したりせずに、子どもの存在自体、結果ではなく過程・頑張り、小さな成功体験を褒めてあげましょう。

自信は人を形成する大事な要素です。

『非認知能力』は、簡単に言うと「頑張る」「我慢する」といった感情や心の動きに関連する能力です。伸ばすために親ができることは意外と簡単です。無条件の愛を与えて、ありのままを受け入れてあげる…子どもを愛する気持ちがあれば大丈夫です！